

中頭病院新病院整備事業
公募型設計プロポーザルコンペの審査経過ならびに講評

新病院基本設計審査委員会

審査委員長 笈 淳夫

委員 下地 勉

玉那覇 榮一

千葉 学

山下 哲郎

審査経過

1．平成22年3月22日（月・祝）第1回審査委員会開催。

審査委員の互選により、審査委員長に笈淳夫国立保健医療科学院施設科学部長を選任した。また、設計プロポーザル募集要項に基づき実施手順を確認し、様式、提案項目、参加表明書および提出書類作成要領について審議・承認された。

2．平成22年4月1日（木）募集要項公告。新聞2社・敬愛会ホームページへ掲載した。

3．平成22年4月8日（木）～9日（金）敷地見学会。11社が参加した。

4．平成22年4月12日（月）参加表明書提出。9社が参加表明した。

5．平成22年4月26日（月）質疑書の回答を各社へ郵送と敬愛会ホームページ上で行なった。

6．平成22年5月19日（水）第一次審査書類提出（技術提案書等）。6社からの提案を受理した。（3社提出辞退）

7．平成22年5月29日（土）第2回審査委員会（第一次審査）開催。

第一次審査は審査委員全員出席のもとで開催された。最初に委員に事前送付した匿名の技術提案書（無作為にA～F社と標記）を1点ずつ取り上げ、各案の提案内容について相互の理解を深めるために意見を出し合った。その後1委員3票をもって無記名による投票を行なった。投票結果は、A社3票・B社4票・C社0票・D社5票・E社3票・F社0票である。この結果を受けて、0票であった2つの提案をヒアリング対象外とし、残りの4社をヒアリング対象社にふさわしい提案として仮に決定した。その上で4社の技術提案書以外の提出書類（様式3～7）を審査し、経歴・実績ならびに業務実施体制等について検討した結果、いずれも問題ないと判断してこの4社を第二次審査（ヒアリング）対象社とすることを決定した。その後、第二次審査の場所ならびにヒアリングの進め方について協議をおこなった。

8．第一次審査を通過したヒアリング参加社に対し参加要請書を平成22年6月1日に送付した。また同日、非選定社にも結果を通知した。

9．平成22年6月20日（日）第3回審査委員会（第二次審査）

第二次審査は全審査員が出席して行われた。まずヒアリングの前に二次審査の進め方の確認を行った。一次審査を通過した4社それぞれに、順次提案書についての15分間のプレゼンテーションを求め、委員との間で30分間の質疑応答を行い、提案内容の理解を深めるとともに提案者の説明能力や質疑応答能力を含めた総合的な力量を審査した。プレゼンテーション終了後、改めて1提案ずつ委員間で意見交換を行い、提案書の内容の理解と提案者の能力について理解を深めた上で、各自優秀と思われる2提案を選び無記名投票を行った。投票結果は、A社3票・B社0票・D社5票・E社2票である。投票結果をもとに協議を行った結果、0票の提案については全員一致で対象外とすることを確認し、その後改めて各提案の評価を1案ずつ行った。そして各自最適設計候補者と思われる1提案を選出する無記名投票を行った。投票結果はA社0票・D社4票・E社1票である。投票数の多かったD社の案について委員間で意見交換を行い、最終的に全審査員一致してD社を最適設計候補者として選定した。最後に改めて次点者を選定するために各審査委員が1票ずつ投票する無記名投票を行った。投票結果はA社4票・E社1票であり、再度の議論の結果全審査委員一致してA社を次点者として選定した。

講評

「総評」

本プロポーザルコンペは敷地条件が厳しい中で、既存の病院を運営しながら増改築を行うというきわめて難しいものであった。しかしながら各社より提出された6つの提案書は、いずれも厳しい計画条件に対して真摯に取り組んだものであり、審査委員会としてはこれらの提案に対して誠実に審査を行った。

技術提案書の課題としては主に1．適切な病院の配置計画と建て替え計画、2．急性期医療施設の病棟計画、3．救急医療施設のあり方、4．特に提案したい事項を求めており、各社から様々な提案がなされている。特に建て替え計画についてはほぼ1期で主要部分を建て替える計画から、順次3期に分けて整備を行うものまで様々な提案がなされ、工事期間中の運用上の問題も含めて審査委員会においてその実現性について数多くの議論がなされた。

「選評」

最適設計候補者：D社：株式会社共同建築設計事務所

この案はエネルギー供給への配慮を含む合理的な建て替え計画を提案しており、全体を1期から3期に分けて改築する計画である。特に病棟は「ケアゾーン」「居室ゾーン」「家族ゾーン」の3つのエリアに分ける特徴的な提案を行っている。医療スタッフと外来者との動線を分離する平面型は古くから試みられているプランであるが、それをこれからの急性期医療施設の病棟計画に発展させようという提案を新しい試みとして高く評価した。また病院全体のブロック計画も大きな問題がなくまとめられている。一方で、審査の過程においてはこの病棟が空調計画、患者のプライバシー、病棟のセキュリティなどの問題に対して今後精緻な検討を必要とすることが指摘されている。また工事期間中に手術部とICUが分かれることも問題であり、西棟を有効利用することにより病院全体の面積にゆとりを持たせて病院の成長と変化に対応できるよう再検討することも意見として出された。しかしながら提案社はきわめて意欲的な病棟計画を提案しており、様々な今後の課題にも十分対応できるだけの能力を有していると判断して審査委員会において最適設計候補者として選定した。

次点者：A社：株式会社佐々木設計事務所

この案は 期でほとんどの診療機能を建て替える計画であり、全体が単純明快な構成となっている。また外周通路を建物のまわりにきちんと回していることなどには病院の将来のメンテナンスに対する配慮が十分伺えた。構造にプレキャストプレストレストコンクリートを提案するなど沖縄の地域性を十分に考えた提案であり、ヒアリングにおいても提案社の受け答えはきわめて誠実で審査委員の高い評価を得た。しかしながら病院の基本的な機能を押さえていないところがいくつか見られており、実際の運用において問題となりそうな点があることが指摘された。また西棟の使い方の提案に無理がみられており、全体構成を大きく見直す必要がある。このような問題点もプロジェクトの実施体制を再構成することにより解決が可能であろうと判断して次点者として選定した。

B社：日揮株式会社

この提案は医療機能の主要な部分を 期工事にて完成させる内容となっており他社と比較して特徴的であった。提案されたデザインも隣接するちばなクリニックとの統一を考えており好ましい。また既存棟として残す西棟の1階を救急部門として転用する提案は敷地全体における配置を考えると合理的であり高く評価された。しかしながら特徴的な弧を描く平面型と構造計画の間に整合性がみられず、その実現可能性を評価することができなかった。

E社：久米・国建設計共同企業体

この提案は西棟を有効に利用しており、全体のバランスも良く安心感のある病棟計画も高く評価された。しかしながら 期工事で整備される手術部は 期工事が終了するまで使うことができないことや、増築スペースの設定の仕方、工事車両のアクセスなど現地建て替えという本計画の大きな課題に対して提案が十分に煮詰められていないと評価した。